

授 業 科目名	教育方法・技術論	必 修	開講年次	2	単位数	2
科目区分	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）					
サブ タイトル	教育方法の変遷と新しい教育方法	担当者	大即 小松			
講義概要	<p>【概要】 「何をどのように教えることが子どもの学習意欲向上につながるか」という観点から、授業システムやカリキュラムの基本概念、授業のデザイン、教材教具の開発・発展、学習の形態等に着目し、教育方法の意義と技術の理解を深めることをねらいとする。</p> <p>【到達目標】 授業内で学んだことを生かし、子どもが興味・関心を持つ授業を構想・実践・評価するためのより適切で有効な方法・技術を獲得することである。</p>					
履修条件	PC の ID とメールアドレスが利用可能であること					
教科書・ 参考書	<p>【教科書】必要に応じて、随時資料を配布する</p> <p>【参考書】適宜、教場で指示する。</p>					
授業回数	内容					担当者名
1	なぜ教育方法を考えるのか？					小松
2	教育方法史（１） 教授法の成立と展開					
3	教育方法史（２） 教育方法の歴史					
4	カリキュラム論（１） カリキュラム編成の原理と歴史的展開					
5	カリキュラム論（２） 学校現場におけるカリキュラム編成の実態					
6	授業論（１） 問題解決学習と系統的学習					
7	授業論（２） 代表的な授業実践の検討					
8	小括（いかに授業を組み立てるか）					
9	視聴覚教材の活用による学習過程の変容					大即
10	放送学習、マルチメディアの教育の可能性と問題					
11	視聴覚教材の操作方法と効果的な使用					
12	インターネットの教育利用と問題点（検索エンジンの活用と情報の信頼性）					
13	情報機器を活用した授業実践例（１）					
14	情報機器を活用した授業実践例（２）					
15	学習指導と評価					
評価方法	授業の出席状況と試験，課題の提出状況により評価します。					
評価基準	授業内容についてよく理解し、適切に表現できた者には「A」を与える。内容についての理解や表現に不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。					
その他	1回～8回までを小松、9回～15回を大即が担当します。 単位については各教員が評価し、両教員とも合格点に達しなければ付与しません。					